

教科名	児童の実態(現状の課題)	具体的な改善のための方策
国語	教科の課題 【読むこと・書くこと】 ・物語文の読み取りでは、書かれていることのおおまかな内容や事実関係を把握することは、ほとんどの児童ができています。説明文では、段落や大事な言葉、文章を見付けることはできるようになってきているが、段落相互の関係に注意しながら読み取ることは難しい児童がいる。【まとめる】 ・文学作品の感想における内容が乏しい。	【読むこと・書くこと】 ・各段落の内容を言葉や短文で表現することを繰り返し行う。 ・筆者の考えを中心に読み取らせ、要旨をまとめる活動を繰り返し行う。 【まとめる】 ・物語文における心情の変化について、叙述に基づいた読み取りができるようにする。そのために、心情曲線を使って、心情の変化に着目させる。
	言語能力育成のための工夫 【言語能力】 語彙が乏しく、適切な表現ができない場面が多い。	【言語能力】 ・朝読書や図書時間を確保する。 ・可書教諭との連携を図る。 ・思考力育成シートを活用する。 ・学力向上タイムを活用する。
社会	教科の課題 【資料の読み取り】 ・グラフや写真から情報を読み取り、気付いたことを書くことが苦手で、個別の対応が必要な児童が数人いる。 【問いの抽出】 ・学習課題を見いだしたり、問題に対する答えをまとめたりすることが難しい児童がいる。	【資料の読み取り】 ・グラフや写真から分かる事実を全体で共有することを続け、資料を見る力を養っていく。 【問いの抽出】 ・自分の生活経験を想起させたり、資料を比較して違いを見付けたりしながら、学習課題作りができるようにする。学習課題に対するまとめを、毎時間取り入れ、大事な事柄を落とさずにまとめられるようにする。
算数	教科の課題 【用具の操作】 ・分度器やコンパスなどの用具の特性を理解しておらず、作図に課題が残る。 【数学的思考】 ・自分の考えを図や式を用いて分かるように表現することが難しい児童がいる。	【用具の操作】 ・用具を使う学習では、その特性について振り返る時間をつくる。 【数学的思考】 ・問題文の内容を簡単な図で表すように促すことで、既習事項を用いて解決できないかと考える手立てとする。
理科	教科の課題 【問題解決的な学習】 ・活動は楽しんで行うが、観察や実験で得た結果を記録し、考察することに課題が残る。	【問題解決的な学習】 ・調べる視点や目的を明確にする。 ・ノートや観察カードの書き方指導を通して、問題解決的な学習に沿った学習ができるようにする。
音楽	教科の課題 【思いや意図をもって表現する】 ・曲想と音楽の構造などの関わりに気付ける児童が少数しかいない。また、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、演奏のよさを見いだす児童が少ないことが課題である。 【曲を聴いたときに感じたことを伝え合う】 ・思いや意図を表現する技能が身に付いていない。また曲の雰囲気や曲想を考えると難しい。	【思いや意図をもって表現する】 ・どんな曲を聴いても、必ず「どう感じたか」また音楽の構造について分かりやすく解説していく。日頃より音楽室内に音楽を構成する要素や仕組みについて掲示をして、言語化することを習慣化していく。 【曲を聴いたときに感じたことを伝え合う】 ・音楽表現することのよさを見だし、音楽表現することの喜びを味わえるように題材を選んでいく。
図工	教科の課題 【知識・技能】 ・材料や用具を適切に扱い、表したいことに合わせて工夫して表現する力に課題がある。 【思考力・判断力・表現力】 ・自分なりの楽しい表現を見付けて意欲的に取り組む児童が多いが、用具の扱いが難しい児童もいる。粘り強く丁寧に取り組むことが苦手である。	【知識・技能】 ・材料や用具を安全に使用するよう配慮すると共に、表し方を工夫して作品を作る楽しさを味わう中で材料の扱い方や技能を身に付けさせるようにする。支援が必要な児童には個別に指導する。 【思考力・判断力・表現力】 ・前学年までの経験が視覚的に分かる教材など、系統的に活動を振り返ることができるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し合い、自他の表現のよさに気付く指導の工夫をする。
体育	教科の課題 【運動の工夫】 ・技能を高めるために、練習方法の工夫をしている児童が少ない。 【振り返り】 ・自分の活動を振り返り、次回に生かすことが難しい。	【運動の工夫】 ・自分に合う練習方法を選択して練習する活動を取り入れ、徐々に練習方法を組み合わせるなど工夫ができるようにする。 【振り返り】 ・振り返りカードを用いて、その時間にできたことやうまくいかなかったことを記録し、次回の練習方法を考える手立てとする。 【校内研での学び】 ・校内研で学んだことをすすんで授業に取り入れる。
道徳	教科の課題 【自分事として考える】 ・教材文の登場人物の気持ちや行動の理由を考えることはできるが、自分の生活経験を振り返って考えたり、今後の生活に生かすことを考えたりするのは苦手である。 【まとめる】 ・教材文の登場人物の気持ちや行動の理由をどのように文章化したらいかが、まとめるのに時間がかかる児童がいる。	【自分事として考える】 ・教材文と似た場面の経験を出させ、その時にできたことやできなかったことを振り返り、どんな経験や気持ちであっても認める。時間を長く設定し、よりよい言葉や行動を考えられるようにする。 【まとめる】 ・友達のことを聞いたり、板書を見たりするなどして、自分の考えに最も近い表現を取り入れられるようにする。 ・意見交流の時間を設定する。
総合的な学習の時間	教科の課題 【探究的な学習】 ・課題を解決する方法や手立てが、インターネットに偏りがちである。 【文章に表す力】 ・大切な言葉や必要な情報を取捨選択し、まとめることが難しい。 ・得た情報をそのまま丸呑みにしてしまっ、丸写ししてしまう。	【探究的な学習】 ・図書の利用や関係する方へのインタビューなど、様々な方法を意図的に設定し、広く情報を集められるようにする。インターネットの検索方法についても、検索ワードを複数使って検索することを練習できるようにする。 【文章に表す力】 ・国語の学習と連動し、メモのしかたや箇条書きの方法を繰り返し指導する。分かりやすくまとめる方法として、図や写真、表を取り入れることを指導する。 ・自分で再度文章を作らせるように言葉かけていく。 ・児童が興味をもつような資料の提示をしていく。
学びに向かう力等を育むための方策	・学習課題に対して見通しをもって活動することができない児童がいる。	・学習のめあてや課題と共に学習計画を単元ごとに提示したり考えたりする時間をとったり、振り返りをする時間をとる。 ・学習の必然性を感じられるように、単元の導入の工夫をする